

住吉地区及び七里の渡し周辺の エリアマネジメント構想

令和5年12月26日

桑名エリアマネジメント株式会社

■ 会社概要

社 名 : 桑名エリアマネジメント株式会社
所 在 地 : 三重県桑名市太一丸 18 番地
設 立 : 2022年4月1日
資 本 金 : 500万円
役員構成 : 代表取締役 中野 敦之 社外取締役 佐藤 強
 社外取締役 伊藤 孝紀 監査役 諸戸 清光
諮問委員 : 委員長 横井 健祐
事業内容 : 観光まちづくり事業
 地域資源の商品化や開発支援及び販路開拓
 着地型観光商品の企画開発及び販売
 インターネットによる情報提供及び通信販売
 各種イベントの企画・運営
 都市整備や再開発に関する事業

■ 設立の背景

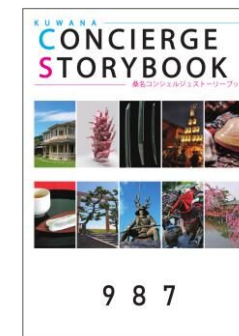
桑名市ブランド推進委員会における
まちづくりビジョンの議論に基づき
住吉地区及び七里の渡し周辺の魅力や価値を
桑名ブランドとして戦略的に事業展開し
地域の活性化に資することを目的として、
2018年12月に民間有志により
『桑名ブランド協議会』を設立。
国交省木曾川下流河川事務所と桑名市を
オブザーバーとして迎え活動を開始。

より機動性の高い組織運営により、
行政や市民、事業者が一体となって推進する
持続的なまちづくり活動を目指し、
2022年4月、桑名ブランド協議会のメンバーで構成する
『桑名エリアマネジメント株式会社』を設立し、
『桑名ブランド協議会』の事業を継承。

■ 桑名エリアマネジメント株式会社について

■ 桑名ブランド協議会（～2023.3）→（2023.4～）桑名エリアマネジメント（株）の活動実績

- | | | |
|-------|-----|--|
| 2018年 | 12月 | ： 桑名ブランド協議会を設立
： 地方創生推進交付金事業を申請 |
| 2019年 | 7月 | ： インフォメーションショップ『宿場の茶店ハジメ』を開業 |
| 2020年 | 3月 | ： 桑名ブランドマスタープランを策定 |
| 2021年 | 2月 | ： 観光分析レポートを作成 |
| | 3月 | ： 桑名コンシェルジュストーリーブックを発行 |
| | 4月 | ： 桑名ほんぱく2021の運営に参画 |
| | 5月 | ： 桑名のてぬぐい「七里の渡し口」の販売を開始 |
| | 7月 | ： パブリックリレーションズ研修会を実施
： 桑名かき氷街道に協力 |
| | 10月 | ： 桑名城御城印の販売を開始 |
| 2022年 | 1月 | ： 桑名のてぬぐい「本多忠勝像」の販売を開始 |
| | 3月 | ： くわなまちぶらまっぶに協力 |
| | 4月 | ： 桑名ほんぱく2022の運営に参画
： 桑名城体感アプリ『桑名城探訪』をリリース
： 桑名城御城印第2弾の販売を開始 |
| | 8月 | ： 桑名城ペーパークラフトの販売を開始 |
| 2023年 | 1月 | ： 桑名城御城印第3弾（本多忠勝ver.）の販売を開始
： 桑名ハイカラツーリズムプロジェクトに参画 |
| | 4月 | ： 桑名ほんぱく2023の運営に参画 |
| | 9月 | ： 特別版「お城EXPO」in 姫路 出展共同参加（桑名市・観光協会と協業）
： 桑名城御城印第4弾（千姫ver.）の販売を開始 |
| | 10月 | ： 桑名ほんぱく2023／六華苑にて試験的に高価格帯のプログラムを実施（10月：2日間、12月：1日間） |
| | 11月 | ： 桑名ハイカラツーリズム・台湾モニターツアー実施（桑名市・商工会議所・観光協会・長島観光開発・USENと協業）
（観光庁「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」） |



■ 桑名エリアマネジメント株式会社について

桑名エリアマネジメント株式会社

■ 桑名エリアマネジメント（以後、「KAM」）が掲げる観光振興によるまちづくり

➤ 対象エリア



①旧東海道筋エリア：七里の渡し跡・旧本陣・一の鳥居周辺～春日神社周辺

②お堀エリア：七里の渡し～桑名城外堀（桑名城石垣）～歴史を語る公園／住吉浦～住吉入江（桑名城外堀/玉重橋）

③水辺エリア：七里の渡し公園～揖斐川河口周辺（堤防ゾーン・高水敷ゾーン・緑地ゾーン・駐車場ゾーン）

④ハイカラエリア：六華苑～諸戸氏庭園

⑤桑名城跡エリア：九華公園～柿安コミュニティパーク～三之丸公園

■ 桑名エリアマネジメント（以後、「KAM」）が掲げる観光振興によるまちづくり

複合的な機能を持ち発展した「近世～近代（明治・大正）の桑名の魅力」を伝え、次の時代に向けて学ぶまちづくり

近世の桑名・・・古代からの水陸交通・交易の要衝としての機能と相まって、「城下町」としてだけでなく「複合的な機能」をもつ都市として発展。

城下機能（防衛）	門前・宿・港機能（商業）
軍事的	非軍事的
閉鎖的	開放的
団塊的な形態	街路村な形態
封建的な武士	脱封建的な町人・商人
消費的な武士	生産的な町人

機能的にも、形態的にも住民意識も異なる要素が混在した近代都市とも言える。

藤本利治 『近代都市の地域構造』より引用

現在の桑名・・・近世～近代の色が濃く残る「歴史・文化」エリアと

現代において一定の支持を得ている「レジャー」エリアがあり、

「対照的な2つがある」ことが強みと考えられる。

そこで、KAMは、近世～近代の色が濃く残る「歴史・文化」エリアを活動対象の中心エリアとしている。

そして、対象エリアをつなぐ共通キーワードである「水」を中心にして、公共空間の利活用を進めることを検討している。

“かつて「混在」したように、現在においては「多様性を受け入れる」という「まち」の在り方を提唱し、学び、実行していくことが、「持続可能なまち」へとつながると捉えている。

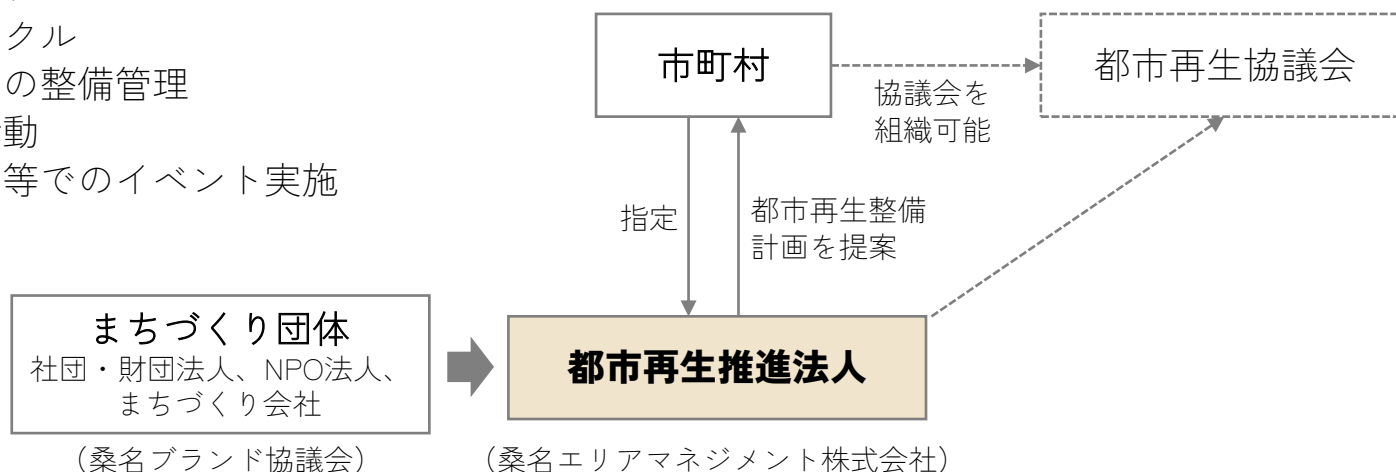
都市再生推進法人とは

都市再生特別措置法に基づき、まちづくりを担う法人として市町村が指定するもの。

- まちづくりの担い手をして公的位置づけを付与される。
- 市町村に対する都市再生整備計画の提案が可能。
- 都市利便増進協定を締結することが可能。

公共空間を利用して実施できる事業例

- オープンカフェ
- シェアサイクル
- 広告塔などの整備管理
- 美化清掃活動
- 歩行者天国等でのイベント実施



■ エリアの現状と課題

桑名の歴史や文化を象徴するエリアなのに、、、

飲食店が少ない
お土産を買える店が少ない
トイレやベンチが無い
観光やまちの情報が少ない
観光情報が一元化されていない
駅からのアクセスが不便
夜間の駐車場が無い
月曜日は閉まっている店ばかり
空き家や空き地が目立つ
お堀・石垣周辺が汚い
お堀の舟が乱雑な停泊で景観が悪い
...etc



**集客力が弱く
回遊性が低く
滞留できる仕組みがない**



**磨けば光る
ポテンシャルを秘めたエリア**

■ 目的地となる空間づくりの将来像 (桑名ブランドマスタープランより参照)

魅力的な景観づくり

映える夜間の灯り演出
電柱の地中埋設
構造物の色彩統一
美化清掃

充実した体験の造成

飲食店での食体験
お土産物の購入
体験コンテンツ
町での宿泊体験

快適空間の整備

トイレの設置
縁台の設置
ゴミ箱の設置
歩行者天国化

利用者目線の情報発信

わかりやすいホームページ
便利なアプリ
リアルタイムなSNS情報
街中のインフォメーション

移動の利便性向上

バスルートや便数の改善
24時間利用できる駐車場
便利なモビリティ
楽しい舟移動体験

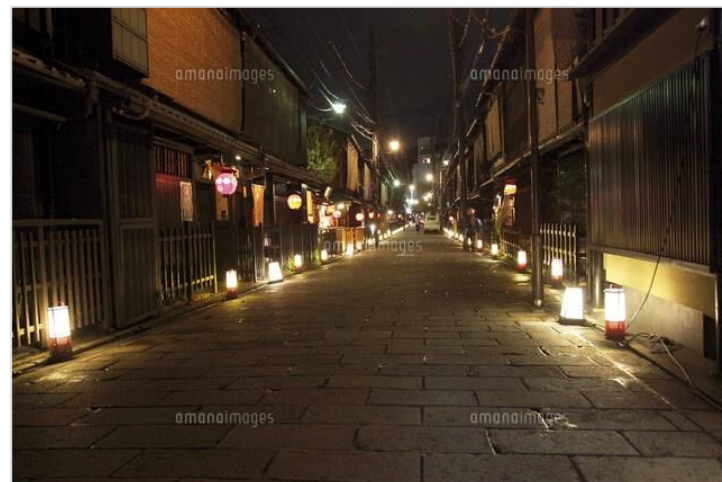
公共空間の利活用プロジェクト

KAMが取り組む施策

公共空間を

- ①自分たちの目と足で『確認』
- ②気づき
- ③清掃
- ④再配分
- ⑤利活用 ※道路の活用等
- ⑥賑わい／消費

循環
持続可能



より多くの人と一緒に取り組む／老若男女誰でも出来る清掃から始めて美しいまちへ

■ 公共空間の利活用プロジェクト

■ 取り組みロードマップ

